

## 平成 30 年度 たまの版CCRsea懇談会 議 事 概 要

日 時	平成 31 年 2 月 20 日 (水) 13:30~15:00	
場 所	玉野市役所 3 階 特別会議室	
出席者 (敬称略)	<b>【委 員】</b>	
	学校法人加計学園玉野総合医療専門学校 介護福祉学科長	五嶋 幹雄
	玉野市医師会 会長	渡邊 正俊
	社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 事務局次長	堀部 誠
	玉野商工会議所青年部 特別理事	岡崎 晋典
	公益社団法人玉野市観光協会 専務理事	池田 敦子
	うのづくり実行委員会 実行委員長	森 美樹
	特定非営利活動法人瀬戸内こえびネットワーク	斉藤 牧枝
	公募委員	木下 雅行
	公募委員	岡崎 文代
	<b>【オブザーバー】</b>	
	一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 代表理事	京谷 潤
	一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 理事 事業企画部長	勝俣 政信
	一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 統括マネージャー	佐々木裕介
	<b>【事務局】</b>	
	玉野市 政策財政部 部長	桑折 恭平
	政策財政部総合政策課 課長	小笠原隆文
	政策財政部総合政策課 主幹	多田由美子
	政策財政部総合政策課行政管理室 室長	山平 智宏
	政策財政部総合政策課 主任	佐藤 健介
	産業振興部 部長	山下 浩二
	産業振興部商工観光課 課長	大倉 明
	産業振興部商工観光課 参事	藤原 記子
	産業振興部商工観光課 係長	三宅 敦士
	産業振興部商工観光課 主事	内田 大貴
配布資料	資料 1 たまの版 CCRsea 懇談会委員名簿 資料 2 たまの版 CCRsea 懇談会設置要綱 資料 3 玉野市審議会等の会議の公開に関する要綱 資料 4 たまの版生涯活躍のまち (CCRsea) 推進状況について 参考資料 たまの版生涯活躍のまち (CCRsea) のご紹介	

## 議 事

### 1. 開 会

### 2. 開会あいさつ

### 3. 委員の紹介

### 4. 座長選任

- ・事務局より、昨年度懇談会にて座長を務めていただいた学校法人加計学園玉野総合医療専門学校介護福祉学科長 五嶋幹雄氏を、引き続き座長へ推薦したいとの提案あり。

→ 委員全員より拍手。異議なしということで、五嶋氏の座長就任が決定。

### 5. 懇談会の運営方法について

- ・事務局より、以降の進行は、座長である五嶋氏に依頼したいとの説明あり。

→ 了承。

### 6. 議事

- ・事務局より、資料4「たまの版生涯活躍のまち（CCRsea）推進状況について」の資料説明あり。

→ 主な質疑は以下のとおり。

委員A； ①資料9 ページの健康食について Web サイトに掲載していただけるとのことだが、カロリーや栄養素等、具体的な表記をしてもらいたい。

②資料14 ページのヘルスツーリズム認証制度はどのような制度なのか具体的に教えていただきたい。

③資料16 ページのヘルスツーリズムプログラムの受入について、対象は若い方なのか、あるいはメタボリックシンドローム症候群の予防が必要となる方なのか。

④資料21 ページの健康サービス拠点について、機能を一つにまとめていった方が運営しやすい。モール等を含めた様々な機能を有した拠点をつくり、予防・介護等をまとめたサービスを提供した方が、玉野市にとって良いと思う。是非そのような構想を検討していただきたい。

⑤資料24 ページの健康づくり教室に関して、対象者はどのような方で、どのような効果が出たのか。

事務局； ①効果検証等必要であると考えており、ご指摘のあった表記について検討する。

②経済産業省が中心となって開発した、ツアーの品質を認証するための制度

である。「安全性」「有効性」「価値創造性」「PDCA 評価」の 4 つの評価基準があり、これらの品質基準を満たした場合に認証を得られるものである。たまの版生涯活躍のまち（CCRsea）基本計画の 27 ページにも詳細な記載があるので参考にしていきたい。

③対象者は若い人だけとか、メタボリックシンドローム症候群の方だけに限定したものではない。ただ、今年度は平日の日中に開催したこともあり、現役を退いた高齢の方が中心であったと認識している。

④市民が買い物等のついでに気軽に立ち寄れる場所として、ショッピングモールメルカ内に整備するものである。ご指摘の点については、今後、市の施策を推進する中で検討する。

⑤連携先の大学が効果を検証していることから、実施主体である事業推進主体とも連携の上、適宜、情報提供できるよう調整する。

委員 A ; 今後、高齢社会がさらに進行する中で、事務局よりご報告いただいたような健康づくりは非常に効果的である。是非、行政も関与しながら市民の健康増進を推進していきたい。また、今年は瀬戸内国際芸術祭が開催されるが、宇野港から島を巡るツアーを実施すれば、コンスタントに観光客を獲得できるのではないか。

オブザーバー ; 先ほど事務局より報告があった着地型観光商品に関連して、ご提案いただいたような商品を開発しているところである。岡山市等でも同様のツアーが始まっていることを踏まえ、宇野港を中心として島を巡るツアー商品を販売していきたい。

委員 A ; 玉野市は瀬戸内の島々に近いこともあり、利点を生かす必要がある。また、玉野市には観光客を引き留めるようなハード施設が少ない。例えば、駅東創庫にアートを集約する等、既存施設を活用して効果的な観光施策を推進していきたい。

オブザーバー ; 対岸の島には魅力的な施設があるが、発着点である宇野港周辺には少ないと感じている。今後、知恵を絞っていけば、玉野市は国内外の方が消費してくれる場所になると感じている。

委員 B ; ガイド・インストラクターの育成と JR 宇野駅における観光案内所整備についてご説明があったが、特にこの 2 つについて、ボランティア団体「つつじの会」との連携を深めていきたい。

事務局 ; 「つつじの会」については、手話を活用した観光ガイドを実施する等、非常

に評判が良くリピーターも多いと聞いている。「つつじの会」を含め、様々な団体と連携したいと考えている。

委員C； 「つつじの会」は、玉野総合医療専門学校とも様々な分野で連携している。外国人に対して積極的に対応されているところも拝見している。玉野市の観光において重要なポジションであることから、連携やサポートをお願いしたい。

委員D； 資料7ページの着地型観光商品について、観光に来る際は必然的に食事や宿泊も利用することになる。そのように考えると、“点”として観光資源が閲覧できるのではなく、1日の行程の中で「食べる」「遊ぶ」「泊まる」等、それぞれが分かりやすく選べるようになれば滞在に楽しさを持ってもらえるようになると思う。玉野市には個人で飲食や宿泊施設を運営されている方もいらっしゃる。そのような方々の窓口となって、着地型観光商品やツアーを企画いただけることを期待している。

委員E； Webサイトについては、開設したばかりであるため、今後、内容が充実することを楽しみにしている。このようなたくさんのお組について、今後のお知らせだけでなく、これまでの活動を幅広く紹介していただけると、さらに興味を持たれると思う。

委員F； Webサイトについては、「玉野 移住」と検索してもヒットしないのか。

事務局； 現状、「玉野 移住」の検索では出てこない。一方、玉野市ホームページのリニューアルを進めているところであるため、移住希望者を始め、閲覧者にとって使いやすい環境を整備したい。

委員A； 資料13ページにおいてインバウンド向けの商品開発に関する説明があったが、Webサイトは外国語にも対応しているのか。

オブザーバー； 現状は日本語対応のみであるが、来年度、多言語化対応を検討している。

委員A； 玉野市を訪れる外国人では、どこの国の方が最も多いのか。

事務局； 最近の調査では、韓国、香港、台湾等の多さが目立った。ただし、これは計測した時期（10月～12月）の影響もある。直島の宿泊施設に問い合わせると、約9割が外国人であるが、そのうち約7割は欧米系の方であったと聞いている。秋頃の時期はアジア系の方が多いということが分かっている。

委員G； パッケージツアーであれば、観光バス等で連れていってもらえるが、外国人の場合は個人で来ている方が多い。例えば、深山公園から王子が岳に行きたくても交通の足が無かったり、活用できる時間が限られていることがある。一つひとつのコンテンツは良いが、アクセスする手段がない。分かりづらいところもある。

委員A； 特に高齢者は交通手段がなくなっている。

委員H； 資料 21 ページに健康サービス拠点の紹介があったが、他の行政窓口の場合、利用したい時に対応する人がいないケースも見受けられる。活用できなければ価値が生まれないと思うが、健康ステーションに人を呼び込むような仕掛けが必要だろう。また、専門性を持った人材の確保や丁寧な対応も必要になると考える。

委員G； 例えば、献血センター等が併設されていると良いのではないかな。

オブザーバー； 現在、健康ステーションにおける機能を調整している段階ではあるが、インボディ計測を行うサービスを予定している。また、週に何度かは保健師が専門的なアドバイスを実施し、健康づくり教室を実施できるような仕組みを検討している。また、場所を認知していただくことも必要であると考えており、効果的な情報発信に取り組みたい。

委員G； 常時スタッフがいないわけではないのか。

オブザーバー； 週のうち何日かは休館日を設定する予定である。

委員A； 医療による特定健診がベースとしてなければ市民の健康増進は進まないのではないかな。

オブザーバー； 健康ステーションの中では特定健診を受けた方に対して、特定保健指導が受けられる体制を整えている。

委員G； 医師会との連携も検討していただきたい。

委員I； 資料 32 ページの目標指標の中で、「②たまの版生涯活躍のまちの取組による移住者数」とあるが、若者の市外転出が増えていく一方で、このような方々は何を求めて玉野市に移住しているのか。玉野市の魅力を全国に発信できる

かどうかによって、最終目標の達成に大きく影響すると思う。

委員D； 移住するにあたって、求めるものは人それぞれであるが、岡山県は比較的住みやすいという点で選ばれやすい。その中でも、瀬戸内海の景色や穏やかでのんびりした雰囲気は、特に関西・関東圏の方が玉野市に魅力を感じている要素の一つである。また、玉野市は元々県外の方も多く、オープンな雰囲気もあることから、移住者にとって入りやすいこともある。

委員E； 私自身が移住者であるが、ゆったりとしたオープンな雰囲気である一方で、何もないわけではなく、生活する上では必要なものが揃っているというところは移住するにあたって敷居が低いと感じる。

委員A； 逆に、転出する人が多い理由は何なのか。

事務局； これまでに転出の理由を分析してきたが、若い方にとっては、大学進学や就職という機会に転出するケースが多い。また、働き世代に関しては、市内に手頃な物件がないという話を聞いている。このことを踏まえ、来年度は総合戦略の見直しを予定しているが、市内の住まいに対する有効な施策を検討していきたい。

委員I； 私の職場に関して言えば、玉野市内に居住している職員が産休・育休を取得した場合、その期間が終了した後すんなりと職場復帰している。一方、市外に居住している職員は保育園に入れるかどうか不安を感じながら待たなければならない状況である。玉野市の場合は、保育園に入りやすかったり、医療費が中学校まで無料である等、住みやすい環境が整っている。玉野市に職場がありながら市外に住む方が多いことは不思議に感じている。玉野市は田舎というイメージもあるが、住みやすい環境が整っているというところをPRしていただきたい。

事務局； 今までに、市役所はPRが苦手だという指摘もされている。市内に定住していただけるようしっかりと情報を発信していきたい。

委員F； 2年後には自立・自走しなければならないということで、ビジネスとして成熟させることは大変であると思う。一方で、基本計画の冒頭にも掲げられている「たまの長期人口ビジョン・たまの創生総合戦略」の4つの基本目標を実現することは非常に重要であり、しっかりと検証していただきたい。基本計画の成果目標について、移住者数の累計が100人であることや若者の雇用者数の累計が30人であることが多いのか少ないのか、基準として明確であ

るのかという疑問は持っている。また、転出超過に関して、若者が玉野市を出て行かざるを得ない理由はそれぞれあると思うが、例えば高校生と一緒に「玉野愛」を育む事業が盛り込まれていても良いのではないかと思う。

事務局； 「たまの長期人口ビジョン・たまの創生総合戦略」の4つの基本目標の達成を目指す中で、現在、たまの版生涯活躍のまちの推進に取り組んでいる。基本計画の成果目標の妥当性については、総合戦略の数値をもとに、現実的な数値として設定したものである。委員よりご提案のあった「玉野愛」を育む事業として、今年度は、高校生が地元企業を体験できるインターンシップを実施したところである。たまの版生涯活躍のまちの推進においても、ボランティアやアルバイトとして参加できる要素をつくる等、様々な方が参加できる事業として作り込んでいきたい。

委員E； 瀬戸内国際芸術祭のボランティアサポート団体である「瀬戸内こえびネットワーク」では、芸術祭の開催期間以外でも、瀬戸内の島々において開催される行事に参加している。現在、ボランティアメンバーは玉野市外の方が多いが、活動を通じて玉野市に愛着を持って、玉野市を自分のまちであると捉えている方が増えていると感じる。現時点で目標数値に反映はされないかもしれないが、玉野市内に新たな人の流れが生まれるような動きも見受けられる。玉野市内の方にも参加していただき、やりがいを持ってもらえるよう、たまの版生涯活躍のまちの計画を考慮しながら貢献していきたい。

委員C； 健康ステーションの開設については、特定健診を実施するということも踏まえ、多くの方が健康づくりに参加できるような体制づくりが必要になる。また、転出超過に歯止めをかけることを目標として玉野市をしっかりとPRしていただきたい。事業推進主体の自立・自走化まであと2年ということで大変であると思うが、その中で学生との連携も含め、「玉野愛」を育むようなことも意識していただきたい。玉野市に来られた方に対して、「玉野市には何があるのか」ということを分かりやすく見せていくことが重要になると考える。玉野市に来られた方は、多くの方が良いところだと言っていた。玉野市の良いところを、Webサイト等を通じて分かりやすく発信していただきたい。

## 7. その他

- ・事務局より、今後の事業内容及び成果目標の進捗状況等については、来年度の「たまの版 CCRsea 懇談会」にて報告する予定である旨、説明あり。

8. 閉会

以上